東京学芸大学・先端教育人材育成推進機構・外国人児童生徒教育推進ユニット 2025 オンライン研修「多様性が活きることばの教育 2025」 報告

趣旨

子どもたちの多様性が生きることばの教育をテーマに、2種類の研修を行う。文化間移動をした子どもたちが、その多様性や出身国・地域等での経験を活かし、学級・学校・地域社会の一員としてその力を発揮できることばの教育を受講者とともに構想する。新たな視点とアイディアで、学びの場・内容と活動、そして支援のあり方を議論し、かれらをエンパワーメントすることばの教育を具体的に検討する。

研修Aでは、高等学校における日本語学習支援に関して環境づくりという視点から捉え直して学ぶ。研修Bでは、子どもたちが成長・発達を十全に送るための教育のシステムを考えるために、幼・小・中・高での学習の連続性を意識したことばの教育について検討する。両研修とも、テーマに関連する情報の提供(講義)・現場の取り組み実践例・参加者間の交流/ワークショップで構成する。

研修 B「幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育」

<ねらい>

多様な言語的文化的背景をもつ子どものことばの教育では、心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、来日初期から子どもたちが自分らしく、もてる力を十全に伸ばしながら成長するための教育を実現することが重要である。本研修では、幼・小・中・高の各教育段階で子どもの発達の状況に応じて教育内容・方法を探るとともに、長期的な視点で校種間の学びの連続性を保障する教育・支援について考える。学校でのスムーズな受け入れとその体制づくり、文化的な適応や地域支援との関わり、そして、初期段階のコミュニケーションから教科学習、そして自己実現のための日本語の力の育成を目指す日本語指導について、考え方を知り、教育現場の実践事例を通じて理解を深める。さらに、ワークショップ型の活動を通して、明日からの指導・支援に生かせるようアイディアを具体化する。内容は、初めて日本語指導を担当することになった教師や支援活動を始めた支援者を主な参加者として構成してある。

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した動画(参加者限定公開)の事前視聴による事前学習を求める。

1 研修 B 報告

(1)第3回研修 概要

日時	2025年8月3日(日)13:30-16:00
主たる受講者 (対象)	「今年、初めて」、「まだ、経験は数年」という日本語指導・支援に携わる 学校教員・支援員・支援者の方
テーマ	「アイデンティティと関係づくりを支える ~ことばの教育実践を通じて~」

ねらいとする	<捉える力>
資質・能力※	イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解するこ
	とができる。
	ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現が
	できるかを、社会の変化と共に展望することができる。
	<育む力>
	ター子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地
	域における社会参加を促すことができる。
	チー子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の
	子どもの学びに結びつけることができる。
研修内容	1 グループワーク 持ち寄った自身の言語ポートレートを共有し、研修
切1671台	
	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
	2 事例共有と講義 長島ヒデキ先生(岐阜大学教育学部附属小中学校)
	のライフストーリーを手掛かりに、ことばとアイデンティティの関係性に
	ついての理解を深める。
	3 事例共有と講義 長島ヒデキ先生の教員としての経験をもとに、アイ
	デンティティと関係作りを支える教員のあり方について考えるための視点
	を得る。
	4 グループワーク 長島ヒデキ先生のお話から、ことばの教育実践に携
	わる自身のあり方についてふり返る。
事前学習課題	次の研修用動画の視聴
(参加に当た	東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット
って)	(2025)『初めて教える人のための 田中先生と学ぶ子どもの日本語指導』
	講座 6 未来を拓く教育 一子どものアイデンティティと教師の成長一
	パート1 子どものアイデンティティと学習 アイデンティティ
	パート2 子どものアイデンティティと学習 青山先生インタビュー (イ
	ンタビュー映像)

※文部科学省

「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」(日本語教育学会 2019) にもとづく

(2)研修 B 第3回 実施計画

活動展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
①説明「研修テーマ、趣	・本研修の趣旨	研修趣旨のスライド資料
旨、目標」	・ねらいとする資質・能力	齋藤(2022)/日本語教育
	・研修終了後の振り返りの実施	学会 (2020)
②講義・演習「アイデンティティと関係づくりを 支えることばの教育実践 一幼児期から青年期まで の学びをつなぐために 一」		
1. ウォームアップ	グループで言語ポートレートを 共有する	講師作成スライド 参考文献:
	共有 り る	少 つ入IIN、,

2. 事例共有・講義「ことばとアイデンティティについて考える〜長島先生のライフストーリーをもとに〜」

長島ヒデキ先生の子どものころのストーリーを聞く

Busch, Jardine, & Tjoutuku (2006)/Prasad (2014)

・事前動画のおさらいと講義に基づきアイデンティティとは何かを確認する

参考文献:

で確認する Gee (2000 ○他者との関係性 (2023)

Gee (2000), ノートン (2023)

○言語の役割○流動性と複数性

3. 事例共有・講義「ことばの教育実践に関わる

教員のあり方を考える ~アイデンティティと関 係づくりを支えるために ~」 ・長島ヒデキ先生の教員としての 考え方や実践を聞く

アイデンティティと日本語学習を結びつけるための視点を得る

- ○関係性を広げる
- ○ライフコースを考える
- ○資源を活かす
- ○エージェンシーを育む
- ○市民性を育む
- ○ばをつくる

参考文献:

Cummins & Early (2011)/ García & Li (2015)/文部 科学省 (2023)/米本 (2021)/Allport (1954)

4. 質疑応答

③グループワーク「長島 先生のお話からことばの 教育実践を考える」

- ①全体:作業の説明
- ②グループ (4人前後): 個人作業の共有
- ③全体:グループでの話し合いの 共有

グループワーク課題

- ①幼少期から青年期において、ことばの教育に関わる者の役割について考えたことを話し合ってください。
- ②自身のことばの教育実践・支援の何を変えていこう、どう変えていこうと思いますか。

例)資源として母語・母 文化を取り入れて/家族 家庭の経験と関連づけて /周囲の子がその子の持 ち味を認める機会を作っ て

④ふり返り

3回の研修内容をふり返る

アンケート記入

- ・満足度
- ・今後の活用のアイディア
- ・ 資質・能力の向上の有無

参考文献・資料

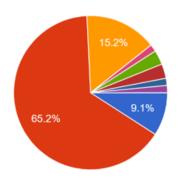
- ・齋藤ひろみ (2022)「外国人の子どもを取り巻く問題」柘植雅義監修・齋藤ひろみ編著『外国 人の子どもへの学習支援』金子書房
- ・日本語教育学会 (2020) 『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』https://mo-mo-pro.com/report
- ・ボニー・ノートン (2013/2023)『アイデンティティと言語学習―ジェンダー・エスニシティ・教育をめぐって広がる地平―』(中山亜紀子・福永淳・米本和弘訳) 明石書店
- · 文部科学省 (2023)「教育振興基本計画」https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_soseisk02-100000597_01.pdf
- ・米本和弘(2021)「「国=文化=人」を問い直す試み―小学生と留学生の交流活動を事例として―」『複言語・多言語教育研究』8,183-193
- · Allpot, G. W. (1954). The nature of prejudice. Addison-Wesley.
- Busch, B., Jardine, A., & Tjoutuku, A. (2006). Language Biographies for Multilingual Learning. PRAESA.
- Cummins, J., & Early, M. (2011). *Identity texts: The collaborative creation of power in multilingual schools*. Trentham Books
- García, O., & Li, W. (2015). *Translanguaging: Language, bilingualism and education*. Palgrave Macmillan.
- Gee, J. P. (2000). Identity as an analytic lens for research in education. *Review of Research in Education*, 25, 99–125.
- Prasad, G. L. (2014). Portraits of plurilingualism in a French international school in Toronto: Exploring the role of visual methods to access students' representations of their linguistically diverse identities. *Canadian Journal of Applied Linguistics*, 17(1), 51-77.

3 成果

参加申し込み数:111 当日参加者数:101 アンケート協力者数:66 (回収率 65.3%)

<アンケートより>

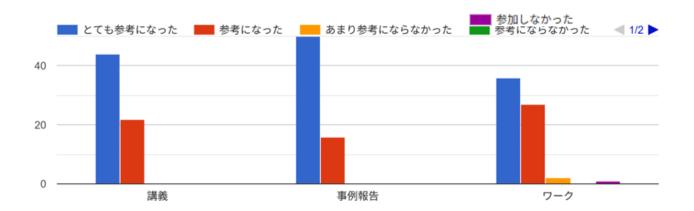
①参加者の背景(立場)



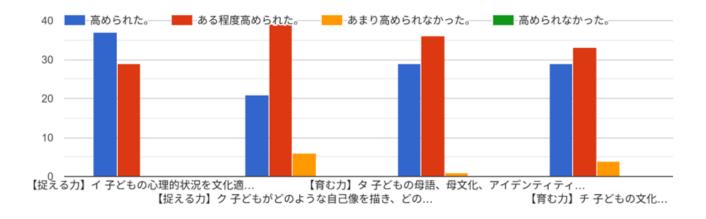
- コーディネート、組織化・連携の仕組...
- 日本語指導・日本語学習支援を行って...
- 教科指導・教科学習支援を行っている
- 生活面の指導・支援、生徒指導を行っ...
- 心身の健康に関する指導・支援を行っ...
- 進路指導・キャリア支援を行っている
- 多文化共生教育、母語・母文化教育・...
- 母語で児童生徒の支援を行っている

▲ 1/2 **▼**

②満足度「参考になったか」



③めあてとした資質・能力の向上について



④寄せられた参加者の声(自由記述回答より)

- ・ 言語ポートレートに始まった、今回の研修の流れがとても新鮮でした。 最後のグループでの意見交換もとても有意義な時間になりました。 現在関わっている外国ルーツの児童に対し、より「自分ごと」として接することができそうです。関わっている児童が今後どう成長していくか、結果を見ることはできませんが、長島先生のようなあたたかな心を持った大人になると信じて、関わっていきたいと思いました。 ありがとうございました。
- ・ 深遠なテーマを簡単で面白い事前課題から導入してくださってよくわかり普段あまり考えないことを立ち止まって考える時間になりました。その後の長島先生のライフストーリーも貴重な人生を共に歩めた想いがしました。ただ、それを自分の教育実践にどう活かすかというところは、なかなか難しく、今日学んだことをいつも心に留め置きつつ、日々の活動を行い、その中の瑣末なことでも繋ぐことができれば良いのかなぁと考えています。また、今回グループワークが初めにあって、途中退場の方がいなかったのも良かったなあと思いました。
- ・ ライフヒストリーを具体的に伺うことで、直面する困難やアイデンティティの問題を切実さを伴って理解することができました。言いにくいかもしれないことも率直に語ってくださって、感謝しています。 また、グループワークで異なる地域の多様な現場のお話を伺うことができ、年齢層や日本語力によって課題が多岐にわたることが実感できました。そして、今自分が携わっている現場を相対化して考えることができました。地域による制度や人員配置のちがいも印象に残りました。
- ・ 今まで、何度か研修等でアイデンティティという言葉に触れ、自分でも使うことがあったが、いつもぼんやりしたイメージから離れられずにいるが、今回の研修で先生方のお話を伺って、少し自分の中にその言葉が生きた語としてうごめき始めた気がする。日々子どもに向き合う中だけでなく、自分自身を見直す機会ももって今日の講義内容をもう何度か振り返ってみたいと思う。
- ・ 子ども同士の交流を作るということで、市の教育委員会として、学校内では1人でも、いくつかの学校の児童生徒があつまり、日本語指導の中で交流ができるような時間や場所を作ることができると思いました。また、私自身、外国にルーツを持っているため、その経験を活かしてさらに生徒に寄り添って、縦・横どちらも支えられるような立場になりたいと思いました。
- ・ 連続した学びの一部である、という考えを忘れずに、そしてベースは子どもに安心した環境を提供することではあるけれど、その中で一つでも子どもたちが自分の言葉としての日本語を身に付けられるようにしていきたいと思う。
- ・ 今回の講義を通して、「捉える力」「育む力」「つなぐ力」に関して深く意識することができました。ただ、それを教育活動や支援に行かせるかどうかは明日からの課題だと思います。 自分の立ち位置では難しいこと(特につなぐ力に関して)は管理職などに伝えることで、道が繋がれば、と思います。ありがとうございました。

<企画・実施者の所感>

研修B第3回では、自身も外国にルーツを持ち、現在、日本の学校で教員をなさっている 長島ヒデキ先生のご経験を伺うことを通して、言語学習とアイデンティティとの関係性、そ して、そこに携わる者としての自身のあり方を考えました。長島先生は、子どものころから 現在に至るまで、学校や家庭でどのような経験をし、どのように感じていたのかを、率直に 語ってくださいました。アイデンティティと聞くと国や言語、文化といった固定的な属性に 結びつけられがちで、例えば、自身のルーツの国について調べたり、発表したりといった実 践を目にすることが多くあります。それら固定的な属性もアイデンティティを考える上で必 要な要素ではありますが、長島先生のお話からは、子ども一人ひとりの個に目を向け、迷っ たり悩んだりときにも寄り添いながら、必要な指導支援を考えていくことが私たちには求め られていることがわかりました。これは言語教育の他の要素も同様ですが、アイデンティテ ィについて考える際にも、一つの内容や方法を全ての子どもに当てはめられるわけではない こと、今の学びが将来につながっており、それを見据えた取り組みが必要であるというこ と、そして、それを常にモヤモヤと考え続ける必要性を企画・実施者も参加者も共有するこ とができました。貴重なお話を聞かせてくださった長島先生に感謝申し上げるとともに、自 己を開示することが必要な活動に真摯に取り組んでくださった参加者の皆さんにお礼申し上 げます。

- 4 資料 (URL にアクセスすれば、ダウンロードできます)
- ①講義資料 米本和弘 東京学芸大学
- ②報告資料 岐阜大学教育学部附属小中学校 長島ヒデキ